

実施報告書

1. 確認事項等

施設番号	66-0209	
施設名	隅田学園	
施設所在地	東京都足立区中川4-37-22	
法人名	社会福祉法人 清仁会	
活動期間	令和7年4月から令和8年3月	
活動内容の公表	✓	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。
	公表ホームページ等のURL	https://www.ans.co.jp/n/sumidagakuen/pdf/sukuwaku.pdf

2. 活動報告（注1）

番号	1					
テーマ	【自然】（蝶・水中生物）					
実施回数・期間 （注2）	合計6回（内訳：6月2回、7月2回、9月1回、3月1回） 令和7年4月から令和8年3月まで					
対象クラス・ 対象人数	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
						32人
活動内容 （注3）	蝶の変態（卵～幼虫～さなぎ～成虫）の過程の観察、水中の生物（魚・哺乳類含む）の活動形態の観察					
活動における チェックリスト	✓	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。				
	※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか グループ（班）を構成し、その中でお互いを感じたことを話し合う機会を作り、自由な発想での展開を促す。					
	✓	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。				
	※記録をどのように行ったか 子どもたちの驚いたこと、気づいた（発見した）こと等が感じられる言葉をメモしたり、映像記録を残したりした。					
	✓	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。				
	※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 園児の視点でいろいろな思いや発言（表現）等が自由にできるような環境を設定した。					
	✓	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。				
	※振り返りの実施方法 活動実施後に再度、記録や映像等で振り返りながら、子どもたちの関心・発見の表現が自由にできるように配慮した。					
	✓	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。				
	※教諭や保護者等への共有方法 クラスだよりや会議での共有を行った。園のホームページにおいて、活動の様子等をまとめ報告を行った。					
✓	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。					
※継続的な実施のための工夫 自然の中にはわからないことや不思議なことがたくさんあることを教えて、今後もいろいろな視点で興味・関心を持っていくことを伝えた。						

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注3）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0209
施設名	隅田学園
施設所在地	東京都足立区中川4-37-22
法人名	社会福祉法人 清仁会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

【自然】

「蝶」の変態（卵～幼虫～さなぎ～成虫）の過程の観察
「水中の生物」（魚・哺乳類含む）の活動形態の観察

<テーマの設定理由>

広い園庭には遊具や砂場だけでなく、きれいな花の咲く樹木（3種の桜や2種の梅等）のみならず、子どもたちにも身近な果実のなる樹木も多く植栽されている。その中でも柑橘系（夏みかん・みかん）等に産み付けられる蝶の卵・幼虫に、毎年、興味・関心を持っていることが設定理由である。また、例年6月には親子遠足において、動物園・水族園等に出向き、自然（動物・植物・水中生物等）と触れ合う機会があることも理由である。

2. 活動スケジュール

6月の親子遠足（今年度は葛西臨海公園・水族園）から始まり、自然物を取り扱う時期に応じて適宜、対応し、3月の卒園までの継続的な活動を行う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

園庭の植栽（柑橘類）の選定期間・方法を工夫し、園児たちが自然と「蝶の卵や幼虫」等を発見・観察できるようにし、一部はクラス内で観察できるように枝を切り取り、その幼虫の成長観察できるようにした。また、水族園にバス親子遠足を設定し、水中生物を実際に観察し、映像に収め、それぞれに園に持ち帰り、その興味・関心を抱いた生物の生態について子どもたちみんな映像を見返しながら、意見・感想を出し合った。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

それぞれの活動において、グループ活動を行い、お互いの意見を出し合ったりした。また、それらの活動や作業内容を映像として残すために「タブレット」での記録を行い、その映像を全体で観察研究できるように「大型電子黒板」を使用し、クラスでの活動に役立てた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

各活動の中で、興味・関心を持ち、取り組んでいた。特に生物が好きな子どもたちについては、名前を付けて呼び合ったり、楽しい時間を共有できた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

年間を通じて、自然に関する（蝶の変態・水中生物の活動等）ことの探究活動に取り組んできた。この体験の積み重ねは子どもたちにとっては「わくわく」することであり、その過程を通し、「すくすく」と育ってきている様子が感じられた。この自然の中に「自分」の存在を再認識できたのではないかと思う。生きること、成長すること、活動することの大切さを保育者も一緒になって考えるいい機会になったと感じている。